

ひとを育てる活動

—チボリの子ども支援—

SCMSI 校の 2014 年度の学校及び生徒数

今年の進級・入学登録受け付けを終了した SCMSI から、7月3日付で、各学校の生徒在籍数が届きました。

ハイスクールは、デコロンとレムエヘックの2校で1,342名と、昨年より100名増えています。ベネフ、ラヒット、レムエヘックの小学校3校の合計479名は余り変わっていません。一方で、カレッジ生が大幅に増加し、右欄のように、施設の不足など、対応に追われています。

総数、2,329名の児童、生徒のうち、今年は、約100名が、HANDSチボリ支援会員の里子となっています。

現地訪問時に、改めて、里子であることの特典について確認しました。免除されるのは、授業料と給食費で、制服や教材等は保護者の負担という決まりだそうです。



里親の皆さんとの精神的なつながりも、里子の特典の一つです。子どもたちは、「頑張ります！」と書く相手がいるだけで、十分力をもらえます。

今回は、会員からお預かりした誕生日祝いのカードを届けました。

担任に付き添われたジェナロ君、嬉しそうでした。

質の高い先住民族教育を担う SCMSI 校教師の給与は、公立の3分の1程度と聞きました。特色ある私立を選択する保護者にも、授業料値上げなど、相応の負担をお願いしたらどうかと、ガンダム代表に提言していますが、里親増加等の海外支援への期待はまだ大きいようです。

レイクセブで出会った学校に行けない子どもたち

5月に始まったばかりの地球環境基金助成のアグロフォレストリー事業(関連記事 P5) のモニターで訪ねたティヌオス村で、学校が遠くて通えない子どもたちと、小さな学校を運営する元 SCMSI の教師アニータ先生に会いました。

人口7.6万人(2010年)のレイクセブには、SCMSI校3校を含む小学校が56校(2011年度)あります。先住民族が多い町としては、初等教育の機会に恵まれている方ですが、それでもまだ、中心部から離れると、学校や幼稚園に通えない子どもがいると聞いていました。

森林事業モニターで初めて訪ねたティヌオスも、そのようなシチオ(最小行政単位)の一つでした。

この1年、森林事業の報告の中で、ティヌオスの子どもたちのことも伝えていけたらと思います。(関連記事 P6)

学生数の大幅増加で、椅子と教室が足りない！

— SCMSI カレッジは 43%増 —

「地域開発」だけの単科大学ですが、教員になるための単位もとれる SCMSI は、レイクセブ町唯一の高等教育機関(車整備等の公立専門学校は3年前に1校開講)として、年々、学生数が増えています。今年は、469人で46%増ということでした。

同じサウスコタバト州の私立カレッジの平均は、1単位250ペソほどですが、SCMSI の場合は、80ペソ(ピサヤ人は135ペソ)と低く設定されています。単科とはいえ、地域開発のリーダーに必要な、農林業、保健衛生、教育、伝統文化等が学べる上、教育の質も評価されて、レイクセブ近隣の裕福でない子どもたちにとって、貴重な高等教育機関になっています。

6月訪問時には、高床式校舎の床下に設置された仮教室を見学しました。壁も仕切りもなく、高地のレイクセブでは雨が吹き込むこの時期は寒そうです。



緊急に必要な備品は椅子です。後方には、立っている学生もいたカレッジ1年の教室。



ドイツ等の支援で建設されたという校舎は、大変しっかりした構造で、床下も仕切りや壁を作ることので、立派な教室になります。実際に、すでにアルミの仕切板と壁の設置で、増設された床下の4教室(写真下)の授業も参観しました。これはオランダの支援と聞きました。今年はさらに教室を増やす必要に迫られて、日本の支援に対する打診も受けました。

支援要請を受ける度に、卒業生に寄付を募ってはどうか等、ガンダム校長に自助努力を提案しますが、まず、日本やオランダにあたってみるという、長年の資金調達方法は変わらないようです。

椅子不足は、希望に燃えて入学した学生の意欲を損ねかねません。自助努力で不足する場合は、会員に呼びかけますと伝えましたが、その後、連絡はありません。何とか間にあったようで安心しました。